

## 詳細仕様

### 1 対象機器

株島津製作所製 血管撮影システム Trinius Opera

### 2 性能・機能等

- (1) 既設正面Cアーム装置と組み合わせて利用できる仕様であること。
- (2) Cアーム回転範囲はLA0/RA0方向に120°/0°以上, CRA/CAU方向に45°/45°以上であること。
- (3) Cアーム回転速度は可変速でシングル・バイ時に最大25°/秒以上であること。
- (4) Cアームの角度メモリ機能を備えること。
- (5) テーブルサイドにCアームコントローラーモジュールを備えること。
- (6) FPDは間接変換方式であること。
- (7) FPDの有効視野サイズは1辺29x29cm以上であること。
- (8) ピクセルサイズは194 $\mu$ m以下であること。
- (9) DQEは77%以上であること。
- (10) FPDのダイナミックレンジは16bit以上であること。
- (11) FPDは、既設正面FPD、新規側面FPD共に同一仕様にする事。
- (12) X線管球の最大陽極熱容量は6.300kHU以上であること。
- (13) 管球焦点サイズは小焦点0.5mm以下、大焦点0.8mm以下を有すること。
- (14) 各焦点の最大入力小焦点時36kW以上、大焦点時72kW以上であること。
- (15) 陽極冷却率は864kHU/min以上であること。
- (16) X線検出チェンバーを内蔵すること。
- (17) 既設正面管球も側面管球の仕様に合わせ交換すること。
- (18) バイプレーン収集に対応可能とすること。
- (19) 血管内光干渉断層撮影診断装置に係る機能について以下(20)から(31)の要件を満たすこと。
- (20) 血管の微細な構造を観察するために、解像度は20 $\mu$ m以下であること。
- (21) オートプルバックシステムを用いて、血管の長軸方向の連続画像を表示し、その長軸方向の長さの計測が可能であること。
- (22) 血管の内腔断面積や新生内膜増殖を定量的に計測することが可能であること。
- (23) OSはWindows XP相当以上であり、キーボードとマウスのみで操作できること。
- (24) OCT画像を記録すると同時にパソコン内のハードディスクドライブに保存することができること。  
またその画像データは、動画でAVI・TIFF・DICOM形式に、静止画でJPEG・BITMAP・TIFF・TIFF・DICOM形式に変換でき、CD/DVDに保存することができること。
- (25) 氏名やID番号の患者情報のほか、血管の観察部位等に関する情報を画面上に表示できる  
アノテーション機能が装備されていること。
- (26) 操作側と術者側にそれぞれ液晶モニターが装備されていること。
- (27) キャリブレーション値を自動的に調整する機能を装備していること。
- (28) 手技中に3次元画像の表示が可能なこと。
- (29) 血管内腔の自動計測機能が装備されていること。
- (30) 操作画面の英語・日本語による多言語表示が可能なこと。
- (31) FFR（心筋血流予備量比）測定機能が装備されていること。